

飛騨における曲木折り畳み椅子の変遷 一昭和3年より昭和末まで一 / 中川輝彦・麓和善
21 卷 2 号、59-86(2017)

木工家具産地・飛騨高山は、飛騨産業株式会社の前身である中央木工株式会社の創業により産地形成が始まった。よって、飛騨地方における家具の歴史を解明する上においては、同社の歴史的考察が不可欠である。このような、同社の歴史において、曲木折り畳み椅子が存在した。

この曲木折り畳み椅子は、1928年より生産が開始されると、日本各地の集会場などで重宝された。また、曲木折り畳み椅子は、1936年に対米輸出が開始されると、米国でも人気を博す同社の中核商品であったが、戦後は、衰退の一途を辿った。とはいえ、曲木折り畳み椅子が、飛騨の家具産業の発展に大きく寄与したことは確かである。

ところが、飛騨における曲木折り畳み椅子の変遷過程に関する研究は、未だ行われていない。そこで、本論文では、飛騨における曲木折り畳み椅子の誕生から発展、やがては衰退に至る変遷過程の解明を目的としている。研究方法は、変遷過程を4つの時代(黎明期、金属統制以前、金属統制期、戦後)に区分し、その上で考察されている。

その結果、飛騨における曲木折り畳み椅子の変遷過程が明らかにされている。さらに1945年以前に開発された曲木折り畳み椅子の、実用新案に関するオリジナリティが明らかされている。本論文は、飛騨地方における木工家具の変遷過程の解明、ひいては日本における木工家具の変遷過程を解明する上において、その意義が大きいといえよう。